

紀州古城館情報

お詫びと訂正・お願い

- 1 前号5月号4Pに「玉置氏については、当会の玉置敏雄氏が中世から近世の玉置氏の歴史を調査され」とありましたが、傍線部「谷口敏雄氏」の間違いです。申し訳ございませんでした。
- 2 会費納入の件。会費未納の方にのみ振込用紙を同封しています。既に入金されているのに振り込み用紙が添付されている場合は、白石までご連絡ください。また振り込み用紙を失くされた時は、郵便口座番号 00940-0-269690 和歌山城郭調査研究会にお振込みください。申し訳ございませんがよろしくお願いいいたします。なお会費は 1年2000円です。
- 3 『和歌山城郭研究』23号は、会員には配布（会費に込み）その他送料込みで1500円で頒布しています。同好の方にご紹介ください。

徳川氏の居城からみんなの公園「史跡和歌山城（和歌山城跡）へ」

和歌山城が歩んだ近代

大山僚介氏「公園化以前の和歌山城—陸軍による管理と旧紀州藩士の動向」
（『城郭がたどった近代』（高田徹編著戎光祥出版2024））から

和歌山市民県民がさまざまな機会に親しんでいる和歌山城跡。明治維新で政庁・要害としての役割を終えた後、どのような歴史をたどって今の姿があるのだろうか。近代の和歌山城のたどった歴史を解き明かした論文を紹介する。以下大山僚介氏の論文の要約である。



明治2年（1869）版籍奉還により陸軍省の管理に
明治維新後、和歌山城は国（兵部省のち陸軍省）の所有となる。明治6年（1872）廃城令（太政官達）で、全国の城郭は陸軍省管轄の「存城」と大蔵省管轄の「廃城」に分別されるが、和歌山城は「存城」となり、外郭部（三の丸など）は払い下げられ、内郭（本丸・二の丸）は陸軍省の管轄下となった。しかし和歌山城の場合、陸軍管轄下でも城内に兵営などが置かれることはなく、本格的に軍事利用されなかった。

最終的には明治34年（1901）和歌山県が内郭部を借り上げて和歌山公園とし、市民が自由に出入りできるようになり、明治45年（1912）には和歌山市に払い下げられて陸軍省管轄から離れ、公園は和歌山市の管理下に置かれた。しかし明治3